

東学思想と大巡思想の 自生的近代性の比較研究

— 天觀(天觀)・地觀(地觀)・人間觀(人間觀)を中心に —

Comparative Study on Indigenous Modernity
of Donghak Thought and Daesoon Thought

Focusing on the Trinity of Heaven, Earth and Man

指導教授 高南植

大真大學校 大學院 大巡宗學科

崔源赫 | 2024年7月

目次 | Table of Contents

I. 序論

Introduction

II. 自生的(自生的)近代性とリミナリティ

Indigenous Modernity and Liminality

III. 東学思想の自生的近代性と作乱(作亂)のリミナリティ

Donghak: Modernity and Liminality of Disorder

IV. 大巡思想の自生的近代性と治乱(治亂)の再活性化

Daesoon: Modernity and Revitalization of Order

V. 東学思想と大巡思想の自生的近代性比較

A Comparison of the Two Thoughts

VI. 結論

Conclusion

研究の背景および必要性

学術的課題

- 東学思想は主に宗教思想としてのみ研究されてきており、「東学(東學)」という名称に内包された東洋の自生的近代性および哲学的思惟方法論としては未だ十分に照明されていない
- 大巡思想もまた「参東学」を主張したにもかかわらず、東洋の哲学的思惟方法論としての研究が不足している

時代的背景

- 西欧的近代性がマテオ・リッチによって西洋に伝播された東洋文明に起源するという事実が最近再照明されている
- 東洋で近代化の障害要素と指摘された儒教が、西欧では近代性の起源であったことが明らかとなった

現代的意義

- 西欧的近代文明がもたらした核兵器環境問題など人類絶滅の危機に対する代案として、自生的近代性が新たに注目されている
- 西欧の脱近代性(post-modernism)論議が東洋に代案を求める状況において、東学思想と大巡思想の再照明が必要

東学思想と大巡思想の現代的再評価

西洋近代性の東洋的起源の再発見

- ウェーバーは近代性の起源をカルヴァンの救済予定説と主張したが、実際にはマテオ・リッチが伝播した中国の儒教文明から始まった
- 朱謙之、フランク、ホブソンなど東西洋の学者たちが西欧啓蒙主義の東洋的起源を再照明する研究を進行中

オンライン資料の開放と学術的再

評価

- IT技術の発達によりGoogleなどオンラインプラットフォームで西欧近代性の黎明期資料が無料開放
- 隠蔽されていた西洋近代性の東洋的起源が記録物を通じて実証的に明らかにされる

東学・大巡思想の新たな位相

- フランソワ・ジュリアンなど脱近代性理論家たちが西欧近代性の代案を東洋に求める研究を進行
- 近代文明の危機と代案的近代性として、早くから宗教的回帰を強調した東学思想と大巡思想の現代的価値が浮上